

研究課題名	肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療とラジオ波焼却術との比較に関する多施設共同後ろ向き観察研究（The efficacy of stereotactic body radiotherapy compared with radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma）
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科放射線腫瘍学 教授 永田 靖
研究期間	平成 29 年 10 月(倫理委員会承認後) ～ 平成 31 年 3 月
対象者	平成 24 年（2012 年）1 月 1 日から平成 28 年（2016 年）12 月 31 日の間に、広島大学病院放射線治療科で定位放射線治療及びラジオ波焼却術を受けられた肝細胞癌（HCC）の患者さん。
意義・目的	肝細胞癌に対する治療としては、肝切除、局所療法（主に局所焼灼療法；RFA）、肝動脈化学塞栓療法（TACE）、化学療法、あるいは肝移植などが施行され、国内外の治療ガイドラインでは、肝切除およびRFAは限局した病変に対する根治療法とみなされています。肝切除や局所焼灼療法が困難な肝細胞癌に対しては、肝動脈化学塞栓術が行われますが、近年、体幹部定放射線治療（SBRT）や粒子線治療が局所療法の一つとして注目されています。このうちSBRTは肝細胞癌に対して保険適応となっており、標準治療である手術及びRFAが困難なHCCに対して、2-3年局所制御率90%程度と良好な治療成績が報告されています。しかし、現行のガイドラインではSBRTの有効性について十分な記載がありません。そこで、小型肝細胞癌に対するRFAとSBRTの治療成績を比較することで、SBRTの有用性を明らかにし、SBRTを新たな治療法の選択肢として確立することができれば、より多くの患者さんに治療法の選択肢の拡大という恩恵をもたらす意味で有用と考えます。以上の理由で、本研究を企画しました。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は診断名、年齢、性別、病歴、有害事象、予後情報です。 新たな質問や検査はありません。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	広島大学病院を含む韓国、台湾、中国、香港、シンガポールの9施設 韓国延世大学（Yonsei University）に情報を集め解析します。
試料・情報の管理責任者	Yonsei University Medical Center：Jinsil Seong
個人情報の保護について	お名前、その他の個人情報が表に出ることは、一切ありません。 利用する情報からは、氏名、その他の個人を直接同定できる情報は削除します。Yonsei University Medical Centerにデータを集約しますが、個人情報を全て除いたデータのみを提供します。研究成果は、解析した全体の数字として学会や学術雑誌で発表されますが、その際に個人名などが表に出ることは絶対にありません。

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方、またはそのご家族は、2019年3月31日までにお申し出ください。この調査へのご自分のデータの使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-1545

広島大学病院放射線治療科 講師 木村 智樹

研究機関：広島大学